

Close Up



金城学院幼稚園
加納 眞知子 園長

金城学院大学 家政学部 児童学科卒業
金城学院幼稚園教諭、家庭にて育児に専念の後、
美園幼稚園産休代替教諭、金城学院幼稚園非常勤講師を
経て2001年から金城学院幼稚園園長
日本キリスト教団 愛知守山教会会員

積み重ねた教育の工夫と 保護者との緊密な連携で 「一人ひとりを大切にする保育」 を実践します。

加納先生は、金城学院幼稚園設立3年目より園児の保育に携わってこられました。
同幼稚園は様々な工夫を重ねることで、園児一人ひとりの個性を伸ばしています。
そこで加納先生に金城学院幼稚園の保育方針や特長について伺いました。

幼稚園設立のいきさつを
教えてください。

1972年1月26日に設立認可が降りました。初代園長は金城学院長でもあった戸苅近太郎先生でした。戸苅先生は世界的に著名な解剖学者、細胞学者でしたが、「幼児期は個体差が大きい時期なので、画一的な教育はしないように」と

おっしゃられていました。そこで「一人ひとりを大切にする保育」という基本的な保育観を実現するべく、金城学院幼稚園が設立されたのです。

設立1年目の入園者数は15名でしたが、3年後には園児数は113名となり、急速に規模が大きくなりました。この急成長の過程で保育者一人ひとりが理想的な保育方法を求めて試行錯誤し、皆で話し合い

ました。その中で採用されたのが「縦割り自由保育」です。これは、年齢によってクラス分けをするのではなく、異なった年齢の園児を混合してクラスを構成する教育です。縦割り保育の開始から27年が経過した現在では、5名のクラス担任の先生と、クラス担任を持たないフリーの先生3名で日々話し合い、カリキュラムを見直すなど改善を重ねながら子

どもによりそった保育を実践しています。

縦割り自由保育の長所を教えてください。

それは、子どもたちの自主性と社会性を引き出して「一人ひとりを大切にする保育」ができることです。年少の園児から見れば、年中、年長の園児は身近なお手本のようなもの。「自分も来年はあんなりたい」と自ら思うので、効果的な教育ができるのです。また、年長の園児も自分の経験をもとに下の園児と関わるようになります。年中の園児は、小児化の進むなか、家庭で経験することが難しい中間の役割による心の育ちを体験できるのです。この長所ゆえに、今では近隣の幼稚園、保育園でも縦割り保育の導入がようやく進み始めました。

もっとも、火曜日と木曜日の午後には年齢別の横割りクラスも設定しています。横割りクラスでは、同年齢の友達との関わりと経験の幅を広げることができます。つまり縦割り保育と横割り保育が相乗作用して、子どもたちの主体的活動（遊び）をより豊かにしていることが最も大きな特長といえます。

縦割り自由保育以外の特長を教えてください。

キリスト教の精神にのっとった教育を行うことです。週に一度の礼拝の時間には、聖

話を聞いたり、食前などにお祈りをします。けんかをした時や、動物が死んだ時も保育者とお祈りをして、悲しい気持ちを神様にゆだねるのです。このなかで、園児たちは目に見えない神さまの愛（力）が自分たちを包んでいることを感じ、自分一人で生きているのではないことに気付くとともに社会の中で多くの人と共に生きることを体感していきます。

さらに、幼稚園と保護者との連携が密接なことも特長です。当園では、通園時間を親子触れあいの機会にさせていただくことを狙いとして通園バスではなく、保護者の方々に園児を送り迎えしていただきます。そのため、毎日幼稚園に来ることによって、自然と保護者の方が保育者と語り合う機会が多くなるのです。父母の会が主催するバザーや講演会を行っていただくだけでなく、園庭整備にも保護者の方々に協力をいただいております。「いもほり母さん」「もちつき父さん」



保護者の協力のもと行われた「いもほり母さん」

など、園児たちを前にして実際の保育の現場に参加していただくことも少なくありません。幼稚園と緊密に関わっていただくことで保護者の方が自然に多くの園児と接することになりますが、これは保護者の方にとってもたいへんに良いことだと考えています。なぜなら、他の子どもの姿を見ることは、より正しい子ども理解が得られて、子育ての参考にさせていただけるからです。

このように、当園では保育者だけが一方的に園児を教えるわけではありません。園児、保護者、保育者がお互いに学び合い、支え合っています。金城学院幼稚園は、園児、保護者、保育者が共に成長する場所と言えるでしょう。

